

原 浩二

原浩二建築設計事務所

【作品名】

“普通の家”の普通なリフォーム



設計	原浩二建築設計事務所
施工	有限会社アイケー住宅
竣工日	2017年12月22日

◎建物概要

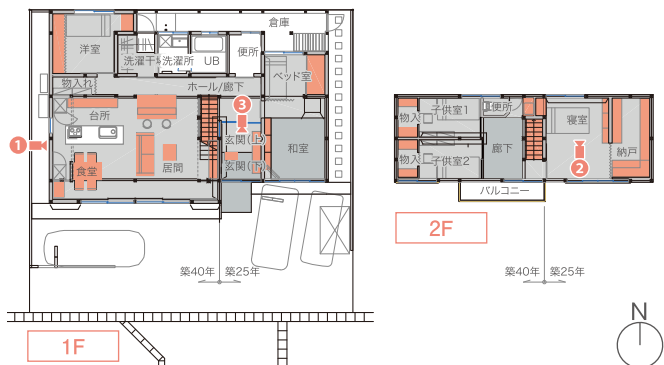
建設地	島根県出雲市	延床面積	143.59㎡
敷地面積	183.74㎡	構造・規模	木造2階建

◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

平面図

リフォーム後



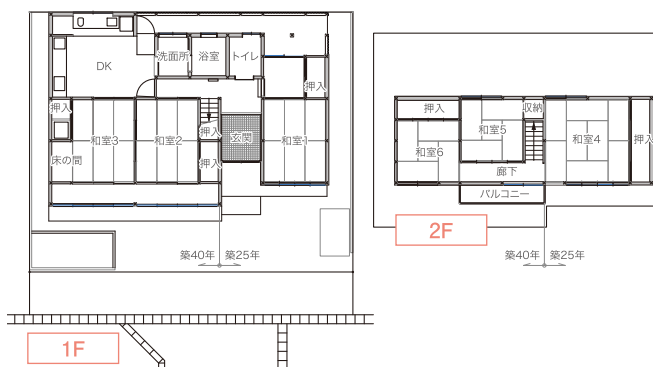
1



2

①②既存のものをなるべく無駄にしないよう杉座板や畳表、障子を意匠的に再利用した。既存壁は真壁のまま見せ、新規壁を大壁として新しさと古さを同居。壁の一部に既存の畳表を再利用している。

リフォーム前



3

③玄関を広くするために、既存のポーチ部分を半分だけ室内にし、軒天をそのまま現している。

設計コンセプト

約40年前に建てられた住宅で、25年前に一度増築された住宅のリフォーム。ご夫婦と子ども2人に、ご主人のお父さんと妹さんの家族6人のための計画で、最初に現地調査をしたときの印象は、かなり物が多くて「生活感満載」という感じであった。ご夫婦以外はデザインや建築にはまったく関心がないようだったので、今の生活を整理しなおして「普通」にまた次の30～40年を住み継いでいてもらいたいと考えた。まず家本体の耐久性アップのために傷んだ土台、大引まわりの入れかえ、防湿コンクリートの打設、耐力壁の増設等を行った。

省エネに対しては、既存のアルミサッシはガラスのみペアガラスに入れ替え、床はフェノバードt45mm、壁はグラスウールの24kg×t100mm、天井はグラスウール10kg×t100mmの2重敷きとし「断熱等性能等級4」程度のグレードを確保。意匠的には雑多な生活感を受けとめるように、シンプルではなく色々な素材を使うように心掛けた。例えばLDKは天井を落として梁と座板を見せ、個室の天井にはパルプボードに竿縁天井風に杉の押縁を付けた。解体のときに既存の材料もできるだけ積極的に使うことを考え、畳下の杉の座板を階段横の大壁一面に貼ったり、

畳表を壁に貼ったり、既存階段の段板は削りなおしてそのまま再利用した。また、障子も裏面に白いポリ化粧板を貼って玄関の大きな下足箱の引戸に使用。物が床に散乱しないよう、壁面棚をたくさん造りつけ収納は可能な限り多くつくった。けっして“建築的な”リフォームではなかったと思うが、少しだけ楽しそう、良い意味で生活感のある場がつくれたような気がする。

審査委員講評

新旧の建築材をバランスよく利用・使用した見事なリフォーム、設計者の力量を十分に感じます。収納も多く設け、光に満ちた新しいライフスタイルが楽しそうです。